

ブック村だより

本学コレクション紹介 (28)

ルソー 『政治経済論』③	森岡 邦泰(1)
人との出会い、本との出会い	盛岡 貴昭(2)
ぶっくす・なう	(4)
『時のみぞ知る』ほか、「クリフトン年代記」	谷岡 一郎
『クレーの食卓』	塩田 眞典
『金儲けの下手な日本人のためのカジノ論』	佐和 良作
『西條八十』	下山 晃
学生の声	(6)
蔵書検索メニュー リニューアルのお知らせ	(7)
インフォメーション・開館案内	(8)



本学コレクション紹介 (28) ルソー『政治経済論』③

画像：平林初之輔譯『エミール』（世界大思想全集 第10巻）春秋社 1927.6

ルソーは、37歳の時、たまたまディジョンのアカデミーの懸賞論文の募集を見て、突然雷鳴に打たれたように、さまざまな思想が一挙にわき出て、感涙にむせった。このときあふれ出した思想を書き留めることがルソーの後の人生の仕事となった。思想家ルソーの誕生の瞬間である。それまでさまざまな書物で蓄積してきた知識がついに独自の思想として開花したのである。『学問・芸術論』がこのとき当選して、ルソーは一躍その名を知られるようになった。その後立て続けに代表作『新エロイズ』、『エミール』、『社会契約論』を世に

送り出した。ルソーの文名はヨーロッパ中に鳴り響いた。

ルソーの文名が上がるにつれて、知己を求めようとする人々がひっきりなしにルソーのもとを訪れるようになった。その一方でルソーは、被害妄想に苦しみ、周囲の人間が自分に陰謀を企んでいると邪推し、かつての親友ディドロを始め、多くの友人と絶交し、また敵を作ったりした。ボルテールには捨て子事件を暴露された。そんな中、長く内縁関係だったテレーズと正式に結婚する。56歳であった。(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

人との出会い、本との出会い

総合経営学部 経営学科 助教 盛岡 貴昭

恥ずかしながら正直なところを申しますと、学校の課題で出される読書感想文など、読まないといけないという状況を除いて、ほとんど活字のみの本を自ら進んで読んだことはありませんでした。大学生になってからようやく、色々なジャンルの本を読むようになりました。学生の頃は体を動かすことが好きだったため、「運動」をテーマにした本を好んで読んでいました。今回は、その中で感動を受けた本を3冊紹介します。

1つ目は、宮本輝の「青が散る」というテニスを題材にした本です。

主人公の椎名療平は、京都の第一志望の大学に落ち、大阪に新設された大学に入学します。特にやりたいことがある訳でもなく、軽い気持ちで入部したテニスに次第にのめりこんでいきます。大学4年間をテニスに捧げる中、佐野夏子との恋愛、そして様々な人々と出会うことで主人公が成長していく過程を描いた物語です。私も大学までサッカーをしていましたので、自分と療平とを重ね合わせながら読んだことを記憶しています。

療平は、共に部活を立ち上げたキャプテンの金子慎一の厳しい練習に耐えながら、少しずつ強くなっていきます。最初は2人のみ参加のテニス部も徐々に部員数が増えていきます。テニス界では高校時代からのスーパースターで、療平と金子の憧れの存在であったが、精神病を抱えてしまった安斉克巳、療平と金子の説得により1年間のみ、テニス部に入部することを決めたテニス経験者の

星野祐子、そして星野祐子を目当てに入部し、最初は嫌われ者だったが、だんだん周りの信頼を得ていく貝谷朝海、1つ学年が下ではあるが、テニスの実力は療平や金子よりも上であるボンク、どの人物も療平のテニス人生に多大な影響を与えます。

小説の後半部分での療平vs.ボンクの試合は、何十ページにも及び、中にはテニスの専門用語が出てきて分かりづらいところもありますが、作者のテニスに対する熱い思いが伝わってきます。部員全員が固唾を呑んで見守る試合で、両者の意地と意地がぶつかり合います。療平は、3年間の過酷な日々を思い出し、ボンクに勝てずに自分のテニス人生が終わってしまうのではと想像すると、突然悔しさに襲われます。そしてボンクに負けただけで自分の大学生活がじつに無為な、人生の無駄遣いであるように感じ、ボンク同様に、引退を覚悟して試合に挑みます。

大学生活最後のテニスの大会では、療平と金子のダブルスで、夢のインターハイ出場を果たしますが、不運なことに初戦から大会優勝候補と当たります。テニスに復帰したが病気が再発してテニス部を辞めざるを得なくなった安斉と、独特な鋭い視点を持った貝谷がサポートに周り、療平と金子は今まで培った全てを相手にぶつけますが、結局負けてしまいます。

テニスを一生懸命したところで、プロになれるわけがないことを知っていながら、テニスにひた向きになる療平の生き方が、私には美しく思えました。今回この小説を読み返し、大学生のときに打ち込んだサッカーとその仲間たちを思い返し、学生である皆さんのことが少しうらやましくなり



ました。大学卒業後、何かにつまずくたびにサッカーで乗り越えてきたことを思い出し、前向きに頑張ってきました。皆さんも何か、在学中に一生懸命になれることに会ってほしいと思います。

2つ目は、植村直己の「青春を山に賭けて」という本です。植村直己は、エベレストを含む5大陸全ての最高峰に登頂した伝説の登山家です。この本は、植村氏の幼少期やアマゾン川の単独いかだ下りの体験を含む、世界最高峰単独登頂の実験が書かれてあります。



数々の前人未到の記録を持つ偉人とはとても想像し難いですが、我々と同様に恐怖心を抱き葛藤に悩む氏の姿や、内気で温和な人柄が文脈から伝わってきます。氏は幼少期から特に目立つような少年だったわけではなく、また運動がすごく得意だったわけでもないようです。高校ではクラブ活動はせず、大学に入って登山部に入部しました。入部した理由は、山で同じ釜の飯を食べることで周囲に溶け込み、友達ができて大学生活を楽しく過ごすことができるからだったようです。そのため、先輩のしごきに耐えられず入部してすぐに登山部を辞めたいと思います。しかし、次第に山に魅了され、日本の山だけでは満足できず、世界の山に挑戦するようになります。

氏は様々な困難に直面しますが、山に対する情熱と周囲の人々の支えによって乗り越えていきます。様々な偉業を達成できたのは、山に対する強い思いだけでなく、周りの人々に恵まれていたからだと言います。登山に興味がない人も、氏の挑戦する姿勢から学ぶことが沢山あると思います。

最後は、村上春樹の「走ることにについて」と

きに僕の語ること」という本です。世界で著名な小説家である村上氏が、走ることがなぜ自分にとって大事なのかを書いています。氏はかつて1日3箱程度のタバコを吸うヘビースモーカーでしたが、小説家として暮らしていくために、生活習慣を改善し、現在は早朝5時前には起床し、1日の内で最も重要な仕事に取り掛かり、その後ランニングをして、日没までには仕事を切り上げ、音楽や読書を楽しむことで心をリラックスさせ、夜9時頃には就寝するという暮らしを送っています。ナイトライフがないのでこの生活パターンがとても効率が良いのだと言います。もともと他人と競争することが嫌いのようで、自分との戦いに挑戦できるマラソンは性に合っているようです。

まじめに運動に取り組むと、自分の年齢による体力の衰えを痛烈に感じます。今までできていたことができなくなることはとても寂しいのですが、誰もが年を取り、体力が衰えていくことから



逃れられません。氏も若かりし頃は、フルマラソンで少々調子が悪いときでも3時間30分を裕に切っていたタイムが、ある年齢からどう頑張っても切れなくなります。それでも自分に挑戦しつづけている人生の先輩として尊敬の念を抱きます。

夢や希望は基本的には期待通りにならないですし、過酷な登山は命を落とす危険性があります。週に60キロも走ると逆に運動のし過ぎで体に良くないかもしれません。しかし、私には、彼らが自分に目標を課すことによって、怠けたがるもう一人の自分と戦い、前向きな人生を歩もうとしているように思えました。紹介した3冊から元気ももらい、生きる活力、そして挑戦する意欲ができれば嬉しく思います。

『時のみぞ知る』ほか、
「クリフトン年代記」(新潮文庫, 2013.5)
ジェフリー・アーチャー 著

ジェフリー・アーチャーといえばイギリスが誇る希代のストーリー・テラー。サーの称号を持つ異色の作家です。『百万ドルをとり返せ!』や『ケインとアベル』など、読んだ人もいられるかもしれませんが。数年前からスタートした「クリフトン年代記」は、たぶん今までの作品で最高の出来。第一部『時のみぞ知る』に続き、(どこまで続くかは別として、イギリスでは五部まで出版されているとか)現在は第三部まで出版されています。一気読みは必至というシリーズです。

20世紀初め頃のイギリスを中心に、アメリカや他の国々を舞台に話は進みます。歴史背景もそうですが、何よりストーリーとキャラクターに魅き込まれるはずです。

クリフトン年代記を書く前のアーチャーは、ある種の政治的スキャンダルに巻き込まれ、結果として刑務所に入れられ、そこで何年か過ごしていました。普通の人間はそこで沈んでゆくものですが、逆に力に変えたことが筆力から伺えるでしょう。刑務所と言えば、同房の者たちから聞いて集めたおもしろ話『15のわけあり小説』も出色の短編集。長編の中休みにピッタリで、こちらもオススメです。この欄でアーチャーを紹介する時は、『ケインとアベル』のつもりでしたが、最近のアーチャーがおもしろすぎるので、こちらにしました。



(学長 谷岡 一郎)

『クレーの食卓』

(講談社, 2009.3)
林綾野・新藤信
日本パウル・クレー協会 編・著

画家パウル・クレーはこよなく音楽を愛し、料理を自ら創作し楽しむ生活者でもあった。その書名が示唆するように、本書は生活者クレーと芸術家クレーが交錯する領域に焦点をあてたユニークな読み物である。芸術家の実人生と彼の作品とを安直に結び付け論ずるようなことは控えるべき、というのが今日の一般的な見識であろう。たしかに、実人生での営みが彼の作品に何らかの痕跡を残すこともあろうが、この場合それは頭で推論すべきことではなく、五感を通して体感すべきことなのである。

といった次第で、ここにはクレーが試みた料理のレシピが掲載されている。早速、私も二三品作ってみました。で、味はどうだった、と問い詰められても、旨かったといえば、どうせオマエは

味音痴だからな、不味かったといえ、作り方を間違えたのでは、と邪推されそうなので止しておく。

クレーがバウハウスに招聘され教鞭を執ったのは40歳を過ぎてから、つまり彼の芸術家としての潜伏期間は20年にも及ぶ。その間、クレー家の生活を支えたのはピアノ教師をしていた妻リリーであった。クレーは主夫として料理を担当、したがって台所は彼のアトリエでもあった。味はこの事実から推測して下さい。

本書は表から開くと画集として、裏から開くと横書き写真付き料理本として楽しめるし、真ん中辺りに新藤信氏によるクレーと市民社会に関する鋭い論考が掲載されている。こちらもお勧め。

(図書館長 塩田 真典)



『金儲けの下手な日本人のためのカジノ論』

(KADOKAWA, 2014.5)

堀 紘一 著

わが国にもカジノを導入しようという動きが進んでいる。カジノといっても、IR（統合型リゾート）といって、数千室の客室、各種レストラン、バー、ショッピング街、会議場、シアター、ジムを含むスポーツ施設、できればテーマパーク、それにカジノなどを一か所に集めた大規模建築物である。こうした建築物を何か所かに建築することを認めようという動きである。カジノがないのは、先進国ではわが国だけで、ずいぶん前から議論されてきた。

カジノにはたくさんの顧客が訪れ、巨額の資金が動くといったことから、カジノに対する関心は強い。これまで何冊ものカジノ本が出版されてきた。そのうち何冊かを読んできたが、それらの中でも本書は最も興味深い本といってもよい。なん

といっても本書を際立たせているのは、著者が、ハイローラーだということである。ハイローラーとは、本書によればまとまった資金をカジノに預けて、ゲームに取り組むプレイヤーのことである。

さらに、著者は世界中のカジノを訪れた経験があり、ハイローラーの目から見たカジノの比較、興味深いプレイヤーの行動など楽しく読み進むことができる。最後に、これしかないといわれている、カジノでの必勝法が書かれている。大方のハイローラーは5年もたてばカジノから姿を消すといわれているが、著者がカジノから姿を消さないのは、この必勝法を完全に身に付けているからであろうか。

(経済学部 教授 佐和 良作)



『西條八十』

(中公文庫, 2008.12)

筒井 清忠 著

君がお爺ちゃんやお婆ちゃんに、「支那の夜とか蘇州夜曲とか同期の桜とか青い山脈って知ってる？」と聞けば、必ず「ぜんぶ知ってる」と答える。お父さんやお母さんに「王将って歌とか人間の証明っちゅう映画のテーマソング知ってる？」と聞けば、「あゝ、何となく知ってる」とたぶん答える。♪母さん お肩をたたきましょ〜 / タントン タントン タン、トントオンとか、♪てんでてんまり / てんでまりいととか、♪ずういずいズッコロ橋 / ごまみっそズイとか、♪おっ山の大將 / おっれひとりいとかいうフレーズは、ちょっと前の日本人なら誰でもがよく知ってた。一どれもこれもが全部、西條八十（さいじょうやそ）の作詞である。(o_o) WA O!!!

西條八十は長きにわたって、とても印象的な童謡や軍歌・歌謡曲の歌詞を作詞した詩人として知られてきた。お爺ちゃんお婆ちゃんとお父さんお母さんに「西條八十って知ってる？」と聞けば、100パーセント、「知って

る」と答える。けど、「西條八十って一体どんな人？」と聞くと、「よくは知らんわ」となる。

この本は、西條八十の人間像や作品の特質を伝えるだけでなく、昭和という時代の本質や雰囲気やナマに感じさせる好著。昭和史に関するユニークな視点や歴史社会学の骨太な業績を提示してきた著者ならではのすぐれた評伝である。爺さん婆さん、父さん母さんと一緒に、楽しんで読んでみよう。(総合経営学部 教授 下山 晃)



今年度より実施の開館延長について、7月に実施した利用者アンケートの集計結果が出ました。今回はその要旨をお伝えします。

実施期間 2014年7月14日～26日(12日間)

配布数 館内(学部生・外部)712、教員99、院生50

有効回答数 館内422、教員25、院生10

調査方法 図書館開館運用に関わる11項目の質問についての5段階評価、属性、利用実態について回答いただきました。

満足度の全体平均値 = 4.04点 (5点満点)

調査開始以来の最高値となりました。

身分別平均：学生 4.03/教員 4.29/一般 4.02

特に「図書館は利用したい時に開館しているか」「必要とする分野の資料が揃っているか」の2項目についてはすべての利用者区分について高い評価を得ました。

学生の皆さんの調査結果は次の通りです。

5段階評価

満足度平均は前回は0.42上回る結果になりました。全体の平均値(4.03)より高い評価を得たのは下記の点でした。「図書館は利用したい時に開館しているか」(4.65)、「必要とする分野の資料が揃っているか」(4.24)、「授業に関係する図書を手に入れるか」(4.04)、「図書館ホームページから必要な情報を入手できるか」(4.04)、「職員のレファレンス対応」(4.33)、「コンピュータに関する設備環境」(4.12)

一方で「独力で資料を探せるか」(3.95)「館内展示」(3.29)、「図書館イベントへの関心」(2.82)、は前回と同じく、低評価となりましたが、いずれも評価値は前回は上回っています。

前回は下回った「職員の対応や勤務姿勢」については「私語を徹底して注意してほしい」「配架

作業中の物音が気になる」といったコメントが寄せられました。

利用形態

読書冊数 1-5冊が78%を占め、13%が「0冊」と回答しました。

来館時の人数 71%が「1人」と回答。約23%が2人と回答し、3人以上の回答は6%でした。

来館 45%が「週1～2回」と回答。14%は「ほとんど毎日」と回答しています。

利用時間帯 15-18時が最も多く、延長時間帯に置ける来館は10.9%(751件中82件)でした。

滞在時間 39%が30-60分、44%が60-120分と回答しています。

利用目的 学習目的の層は、前回66%から44%に減少しました。うち「レポート・資料の作成」は25%で、前回より5%増加しています。読書(16%)は前回と同率でした。

分野 「コンピュータ関係」(118件)、「スポーツ」(115件)、「社会科学」(74件)。

コーナー・施設 閲覧席利用は2階(124件)と3階(123件)がほぼ同数で最も多く、コーナーでは「新聞」「資格」「新着雑誌」が上位を占めています。

開館延長について

「今のままでよい」が84%を占めました。

一方で「もっと延長してほしい」という回答は16%(63件)存在し、延長内容については平日の開館時刻の延長(16件)、土日の延長(6件)、2階のみ開館(日祝、平日20-22時)の3階開放(4件)などの要望が寄せられました。

上半期の延長時間帯における貸出件数は早朝が図書29件/PC94件、夜間が図書89件/PC28件で、朝夜で利用形態の相違が見られました。

蔵書検索メニュー リニューアルのお知らせ

図書館システム変更にもとない、蔵書検索画面をリニューアルしました。

【新OPAC TOP画面】



1. キーワード入力後に隣のタブをクリックすると、同じキーワードが下記機関の検索画面に引き継がれます。

Cinii…国立情報学研究所が提供する論文記事検索データベース「CiniiArticle」を検索できます。

JAIRO…日本の学術機関が集積・保存・無料公開している「学術機関リポジトリ」に蓄積された学術情報を閲覧できます。

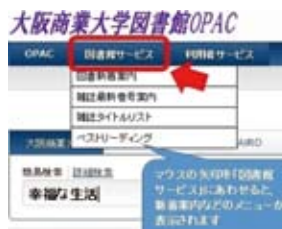
Cinii Books…国立情報学研究所が提供する資料検索データベース。全国機関の所蔵を横断検索できます。

NDLサーチ…国立国会図書館はじめ、国内の大学図書館・公共図書館など学術機関の蔵書、雑誌論文記事等を検索できます。

2. キーワードを入力すると、表紙画像や類似資料が表示されるようになりました。



【図書館サービス】



図書新着案内…登録日の新しい図書から表示されます。分野ごとに表示可能です。

雑誌最新巻号案内…受入日の新しい雑誌から表示されます。

雑誌タイトルリスト…現在図書館で受入中のタイトルリストです。

ベストリーディング…貸出ランキングを閲覧できます。年度ごとに分野指定もできます。



【利用者サービス】



学生のみなさんは、下記メニューを利用できます。
貸出・予約状況照会…現在貸出中・予約中の図書を確認したり、貸出延長手続を行うことが可能です。

パスワード変更…図書館へ申請後、個人サイト「MyOPAC」で自分の貸出情報などを管理できます。

メールアドレス登録・変更・削除…図書館からののお知らせについて、送付先アドレスを設定できます。

図書館インフォメーション

◆特設展示「癒しの本棚」好評展示中！

図書館員がお薦めする、下記をはじめとした多数の「癒される本」をご紹介します。

心の疲れがたまったときに読む本 / 保坂隆編著 (大和書房)

心を整える。 / 長谷部誠著 (幻冬舎)

人生はニャンとかなる! / 水野敬也, 長沼直樹著 (文響社)

さよならドビュッシー / 中山七里著 (宝島社)

スイーツマジック / 若山曜子著 (文化学園文化出版局) (ほか 約60点、順次入れ替え)

◆【予告】特設展示「2014 年間ベストセラー」(12月中旬より)

トーハンが提供する「年間ベストセラー」が一堂に会する、毎年人気の展示です。

読んでみたい方はお早目にお越しください！

◆卒業生（保護者・地域住民の方）も、図書館をご利用になれます

卒業生は登録後、無料で利用できます。公的機関発行の身分証明書および写真（横3cm×縦4cm）をご持参下さい。定められた範囲での閲覧・貸出・所蔵資料の複写が可能です。申込先は2F受付です。

※写真は当館で保管させていただきます。卒業生以外の方は上記と併せ、利用登録料1,000円が必要です。

2014年度 図書館開館カレンダー

12 月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	○	○	○	○	○	△
7	8	9	10	11	12	13
☆	○	○	○	○	○	△
14	15	16	17	18	19	20
☆	○	○	○	○	○	△
21	22	23	24	25	26	27
☆	○	☆	□	□	□	休館
28	29	30	31			
休館	休館	休館	休館			

1 月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				休館	休館	休館
4	5	6	7	8	9	10
休館	○	○	○	○	○	△
11	12	13	14	15	16	17
☆	☆	○	○	○	○	休館
18	19	20	21	22	23	24
休館	○	○	○	○	○	□
25	26	27	28	29	30	31
☆	○	○	○	○	○	□

2 月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
☆	○	○	○	○	○	□
8	9	10	11	12	13	14
☆	□	□	☆	□	□	△
15	16	17	18	19	20	21
休館	□	□	□	□	□	□
22	23	24	25	26	27	28
☆	○	○	○	○	○	□

3 月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
☆	○	□	□	□	□	△
8	9	10	11	12	13	14
☆	□	□	□	□	□	△
15	16	17	18	19	20	21
☆	□	□	□	□	□	☆
22	23	24	25	26	27	28
☆	□	□	□	□	□	△
29	30	31				
☆	□	□				

○: 7:00~22:00(平日 20:00以降2Fのみ)

△: 9:00~18:00(土曜)

☆: 9:00~18:00(2Fのみ)(日・祝)

□: 9:00~20:00(長期休暇中・試験期間中の土曜)

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。開館日程および時間は変更されることがあります。詳細は図書館1階掲示板・館内配布チラシ・ホームページ等でお知らせ致します。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第45号

平成27年11月30日発行

大阪商業大学図書館

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10 電話 (06) 6781-5280 FAX (06) 6781-0089

e-mail: lib@oucow.daishodai.ac.jp ホームページアドレス: http://www.lib.daishodai.ac.jp

ISSN 1346-8928